

米をめぐる関係資料

平成 2 3 年 3 月

農林水産省

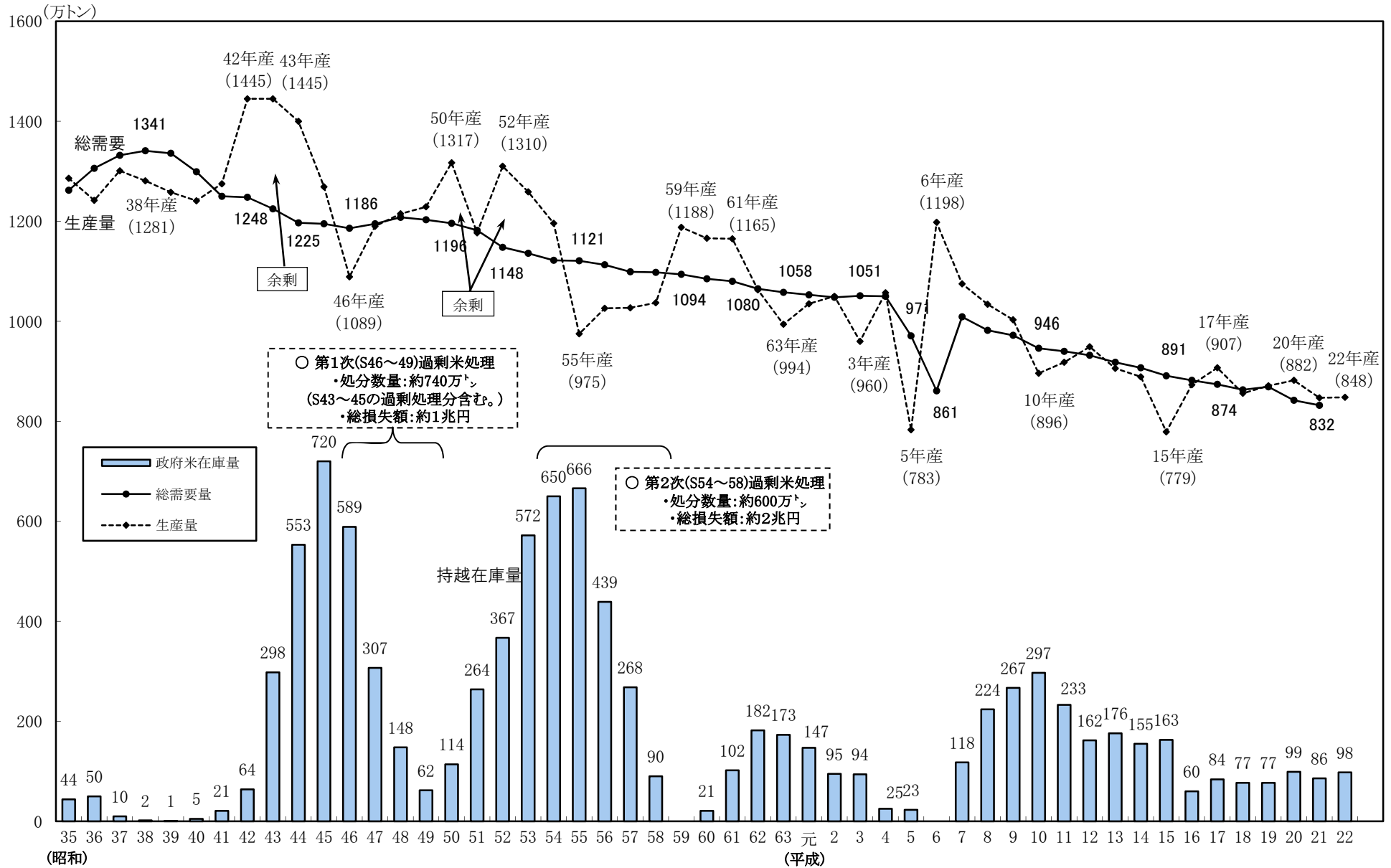
目 次

(1)	米の需給・価格動向について	1
(2)	米の備蓄について	17
(3)	米の輸出について	24
(4)	米の需給調整について	26
(5)	戸別所得補償制度について	33
(6)	ミニマム・アクセス米について	49
(7)	その他	64

(1) 米の需給・価格動向について

1	米の全体需給の動向	1
2	米の流通の状況（16～20年産米）	2
3	家庭における米購入量の推移	3
	（参考1）1世帯当たりの購入量の推移（米・パン・めん類）	4
	（参考2）1世帯当たりの支出金額の推移（食料）	5
4	主食用米の販売動向（米穀卸売業界調査）	6
5	外食の動向	7
6	米消費拡大の取組	9
	（参考）米消費拡大の新たな動き	12
7	米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移	13
8	平成22年産米の相対取引価格の推移	14
9	平成22年産米の相対取引価格	15
10	平成22年産水稻うるち玄米の1等比率	16

1 米の全体需給の動向(昭和35年～)



- 注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。
 2. 在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。
 3. 総需要量は、食料需給表における国内消費仕向量である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。
 4. 平成12年10月末持越在庫は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。
 5. 生産量は、水稲と陸稲の収穫量の合計である。

2 米の流通の状況(16～20年産米)

【生産段階】

(単位: 万トン)

年産	生産量																	
			出荷・販売		農家消費		無償譲渡		10a未満		その他							
											加工用米		もち米		減耗			
16	872	100.0%	636	72.9%	75	8.6%	55	6.3%	50	5.7%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	71	7.8%	55	6.1%	57	6.3%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	67	7.8%	55	6.4%	43	5.0%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	63	7.2%	52	6.0%	59	6.8%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	61	6.9%	53	6.0%	58	6.6%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%

【出荷・販売段階】

年産	出荷・販売																	
			農協						全集連系業者						その他業者		生産者 直接販売	
			販売委託		直販		販売委託		直販									
16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	59	6.8%	167	19.2%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	59	6.5%	167	18.4%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	58	6.8%	169	19.8%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	65	7.5%	167	19.2%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	59	6.7%	165	18.7%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に作成

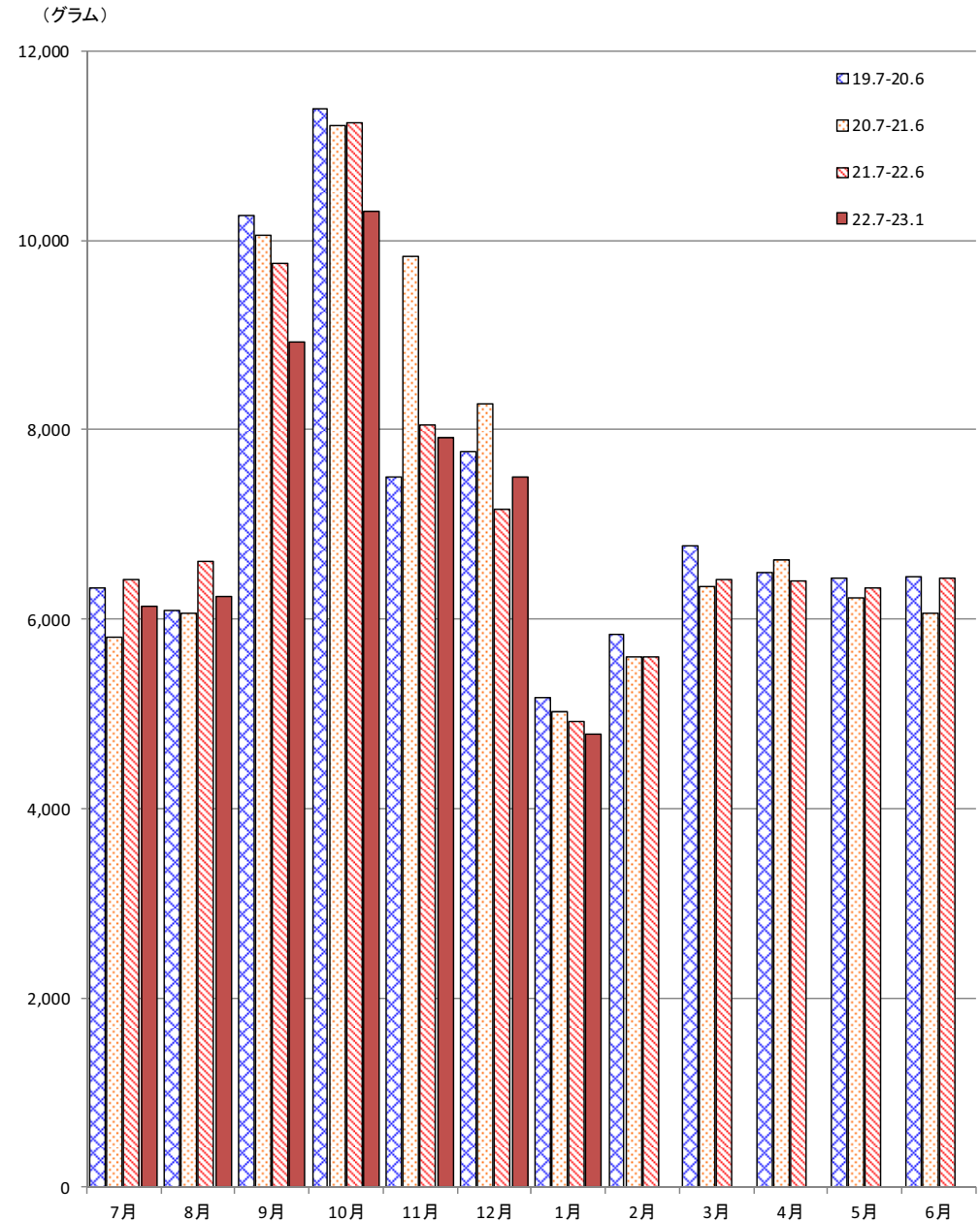
注：1) 10a未満は、「水稲収穫量」と「生産者の米穀現在高等調査」等の差引であり、この中から一部生産者直販やその他業者販売により流通する可能性がある。

2) 生産段階には、このほか集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産米8万トン、20年産米10万トン）がある。

3) ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

3 家庭における米購入量の推移

(単位:グラム)				
	月間購入量	対前年同月比	年間累計	対前年比
H19.7	6,330	0.8%	86,450	2.5%
H19.8	6,080	0.3%		
H19.9	10,250	14.8%		
H19.10	11,390	▲6.0%		
H19.11	7,500	4.0%		
H19.12	7,770	▲0.4%		
H20.1	5,160	4.7%		
H20.2	5,840	2.1%		
H20.3	6,770	6.1%		
H20.4	6,480	1.9%		
H20.5	6,430	1.9%		
H20.6	6,450	3.2%		
H20.7	5,800	▲8.4%	87,050	0.7%
H20.8	6,050	▲0.5%		
H20.9	10,050	▲2.0%		
H20.10	11,210	▲1.6%		
H20.11	9,820	30.9%		
H20.12	8,270	6.4%		
H21.1	5,020	▲2.7%		
H21.2	5,590	▲4.3%		
H21.3	6,340	▲6.4%		
H21.4	6,620	2.2%		
H21.5	6,220	▲3.3%		
H21.6	6,060	▲6.0%		
H21.7	6,410	10.5%	85,300	▲2.0%
H21.8	6,610	9.3%		
H21.9	9,750	▲3.0%		
H21.10	11,240	0.3%		
H21.11	8,040	▲18.1%		
H21.12	7,150	▲13.5%		
H22.1	4,920	▲2.0%		
H22.2	5,600	0.2%		
H22.3	6,420	1.3%		
H22.4	6,400	▲3.3%		
H22.5	6,330	1.8%		
H22.6	6,430	6.1%		
H22.7	6,140	▲4.2%	51,830	▲4.2%
H22.8	6,240	▲5.6%		
H22.9	8,930	▲8.4%		
H22.10	10,310	▲8.3%		
H22.11	7,920	▲1.5%		
H22.12	7,500	4.9%		
H23.1	4,790	▲2.6%		



資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

(参考1) 1世帯当たりの購入量の推移(米・パン・めん類)

(単位:g、%)

	米		パン		めん類	
		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比
平成21年1月	5,020	▲2.7	3,521	▲2.5	2,855	8.1
2月	5,590	▲4.3	3,496	▲3.0	2,688	▲4.0
3月	6,340	▲6.4	4,032	▲2.1	3,122	4.4
4月	6,620	2.2	3,946	▲0.7	2,851	▲0.0
5月	6,220	▲3.3	4,095	4.4	3,185	6.3
6月	6,060	▲6.0	3,826	▲0.4	3,074	▲2.8
7月	6,410	10.5	3,848	4.9	3,457	2.1
8月	6,610	9.3	3,755	6.9	3,125	▲0.6
9月	9,750	▲3.0	3,880	12.0	2,530	▲0.9
10月	11,240	0.3	3,939	7.5	2,879	7.3
11月	8,040	▲18.1	3,736	6.1	2,994	6.1
12月	7,150	▲13.5	3,568	0.1	3,742	2.0
平成22年1月	4,920	▲2.0	3,673	4.3	2,966	3.9
2月	5,600	0.2	3,484	▲0.3	2,778	3.3
3月	6,420	1.3	4,119	2.2	3,135	0.4
4月	6,400	▲3.3	3,989	1.1	2,937	3.0
5月	6,330	1.8	3,954	▲3.4	3,000	▲5.8
6月	6,430	6.1	3,790	▲0.9	3,038	▲1.2
7月	6,140	▲4.2	3,850	0.1	3,503	1.3
8月	6,240	▲5.6	3,612	▲3.8	3,268	4.6
9月	8,930	▲8.4	3,663	▲5.6	2,534	0.2
10月	10,310	▲8.3	3,979	1.0	2,914	1.2
11月	7,920	▲1.5	3,700	▲1.0	3,020	0.9
12月	7,500	4.9	3,680	3.1	3,906	4.4
平成23年1月	4,790	▲2.6	3,656	▲0.5	2,875	▲3.1

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

(参考2) 1世帯当たりの支出金額の推移(食料)

(単位:円、%)

	食料																			
	米		パン		めん類		スパゲッティ		カップめん		菓子類		調理食品		外食					
	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	対前年比	ハンバーガー	対前年比	対前年比			
12年	887,453	-	38,920	-	27,209	-	17,060	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
13年	861,235	▲3	37,045	▲5	26,062	▲4	16,649	▲2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14年	854,518	▲1	35,292	▲5	26,455	+2	16,754	+1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
15年	838,918	▲2	35,903	+2	26,871	+2	16,473	▲2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
16年	835,676	▲0	35,801	▲0	27,307	+2	16,121	▲2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
17年	824,394	▲1	31,676	▲12	25,974	▲5	15,197	▲6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
18年	891,439	+8	30,968	▲2	26,560	+2	16,294	+7	1,021	-	2,952	-	75,463	-	101,905	-	159,676	-	3,506	
19年	901,601	+1	30,680	▲1	27,097	+2	16,415	+1	1,082	+6	2,941	▲0	76,160	+1	100,910	▲1	164,860	+3	3,785	
20年	905,556	+0	31,229	+2	28,127	+4	17,986	+10	1,357	+25	3,015	+3	78,970	+4	98,567	▲2	164,894	+0	4,046	
21年	896,129	▲1	30,496	▲2	28,966	+3	18,423	+2	1,400	+3	3,293	+9	80,403	+2	98,469	▲0	161,314	▲2	4,352	
22年1月	69,851	+0	1,815	▲0	2,255	▲0	1,369	+2	103	▲4	287	+8	6,395	+3	7,786	+2	14,723	+5	423	
2月	65,125	▲1	1,980	▲4	2,231	▲4	1,281	+1	106	▲6	289	+11	6,388	▲1	7,320	+1	11,510	+2	339	
3月	72,571	▲1	2,248	▲6	2,518	▲2	1,447	▲1	124	▲11	316	+6	7,189	▲2	7,925	+1	13,422	+1	418	
4月	69,356	▲2	2,259	▲7	2,468	▲2	1,364	▲4	116	▲8	271	+4	6,199	▲2	7,641	+1	12,413	+0	351	
5月	74,946	▲3	2,282	▲5	2,507	▲4	1,504	▲8	112	▲13	262	▲0	6,727	▲3	7,920	+2	14,786	▲2	354	
6月	70,176	▲2	2,285	+2	2,402	▲1	1,612	▲2	98	▲11	223	▲3	5,919	▲3	7,597	+2	11,738	▲5	284	
7月	74,628	▲0	2,183	▲6	2,365	▲3	1,895	▲4	97	▲12	222	▲6	6,410	±0	8,834	+2	13,235	+1	397	
8月	78,692	▲2	2,114	▲13	2,250	▲5	1,680	▲1	101	▲20	247	▲5	7,547	▲1	8,802	+2	15,535	▲3	498	
9月	70,544	▲2	2,927	▲8	2,237	▲3	1,280	+0	104	▲6	258	▲2	5,806	▲5	7,970	+1	12,306	▲7	337	
10月	73,492	▲0	3,305	▲12	2,381	▲2	1,384	▲1	111	+3	302	+4	5,972	▲1	8,485	+3	12,916	+2	343	
11月	71,295	▲2	2,692	▲4	2,268	▲2	1,368	▲4	100	▲7	302	+3	5,898	▲3	8,135	+0	12,813	▲2	335	
12月	94,091	▲1	2,521	▲4	2,294	▲4	1,863	▲1	108	▲4	371	▲1	8,411	▲3	11,451	+1	14,831	+0	396	
23年1月	68,124	▲2	1,585	▲13	2,192	▲3	1,342	▲2	91	▲12	300	+5	6,078	▲5	7,892	+1	14,073	▲4	439	

資料:総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

4 主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)

[調査の概要]

全国米穀販売事業共済協同組合が、米穀の販売・需要動向を多角的に把握することを目的として、同組合会員企業を対象に実施。四半期ごとに継続的に調査。

- アンケート発送数 188会員（うち回答数107会員）
- 調査期間 平成23年2月7日（月）～ 2月25日（金）

1. 現在（23年1月）の米販売量（前年同月との比較）

集計結果	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	100%	15.9%	25.2%	28.0%	19.6%	11.2%

一販売先別	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
大手スーパー	100%	11.3%	22.6%	29.0%	25.8%	11.3%
中小スーパー	100%	10.5%	16.8%	37.9%	26.3%	8.4%
米穀専門店	100%	5.9%	11.8%	34.3%	32.4%	15.7%
その他	100%	11.8%	16.2%	33.8%	20.6%	17.6%

ファミレス	100%	7.5%	7.5%	60.0%	17.5%	7.5%
ファストフード	100%	8.6%	8.6%	65.7%	8.6%	8.6%
一般飲食店	100%	1.6%	6.3%	59.4%	28.1%	4.7%
中食向け	100%	11.9%	9.5%	50.0%	21.4%	7.1%
給食向け	100%	4.9%	12.2%	68.3%	8.5%	6.1%

*1. 太字は、最頻値。

2. DI (diffusion index) の算出方法：内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0~1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数（%ポイント）としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい（現状維持）を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

2. 米販売の動き：過去3ヶ月前との比較 / 3ヶ月後の見通し

(1) 過去3ヶ月前（22年10月）と比較した23年1月の動き

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	0.9%	19.6%	34.6%	35.5%	9.3%	41.8

(参考) 前回調査 22年7月と比較した22年10月の動き

100.0%	4.6%	27.8%	25.9%	32.4%	9.3%	46.5
--------	------	-------	-------	--------------	------	------

(2) 23年1月から3ヶ月後（23年4月頃）の見通し

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100%	2.8%	36.4%	35.5%	24.3%	0.9%	54.0

(参考) 前回調査 22年10月から3ヶ月後（23年1月頃）の見通し

100%	0.0%	26.9%	32.4%	36.1%	4.6%	45.4
------	------	-------	-------	--------------	------	------

(算出例)	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
評価点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結果(構成比) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値 C = A × B	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4 → 販売は低迷傾向				

5 外食の動向 ②

2. 全店時系列データ(前年同月比)

a. 売上高前年同月比

	10年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月
全 体	99.9%	98.4%	99.5%	98.3%	97.7%	102.5%	101.6%	100.3%	102.7%	100.2%	101.9%	100.2%	101.5%
ファーストフード	102.2%	98.9%	101.8%	99.3%	100.3%	106.5%	103.6%	101.4%	102.7%	99.7%	103.6%	102.1%	102.9%
ファミリーレストラン	98.2%	98.9%	98.3%	98.4%	95.3%	98.4%	100.0%	99.8%	103.5%	100.9%	100.1%	98.8%	100.9%
パブレストラン/居酒屋	97.1%	96.1%	93.4%	93.4%	94.7%	97.4%	98.8%	98.2%	99.9%	101.1%	100.0%	96.3%	98.4%
ディナーレストラン	96.7%	97.2%	100.0%	97.8%	94.7%	102.5%	97.5%	93.4%	104.2%	99.8%	102.1%	99.2%	100.5%
喫茶	96.3%	97.3%	98.4%	99.8%	99.5%	101.1%	102.1%	102.2%	101.2%	100.8%	100.2%	99.1%	99.7%
その他	96.0%	93.0%	95.7%	94.8%	89.7%	96.1%	94.9%	94.7%	101.3%	97.0%	98.4%	96.3%	95.8%

b. 店舗数前年同月比

	10年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月
全 体	100.2%	100.0%	99.8%	99.6%	99.1%	98.8%	98.8%	98.8%	98.8%	98.7%	99.0%	99.1%	99.1%
ファーストフード	101.5%	101.3%	100.5%	100.2%	99.5%	99.2%	99.3%	99.4%	99.4%	99.1%	99.2%	99.2%	99.2%
ファミリーレストラン	98.2%	98.0%	98.2%	98.5%	98.0%	97.7%	97.5%	97.1%	97.1%	97.5%	98.3%	98.4%	98.5%
パブレストラン/居酒屋	100.5%	100.0%	100.8%	100.7%	101.8%	100.4%	101.4%	100.8%	102.2%	101.2%	101.3%	102.7%	101.8%
ディナーレストラン	97.3%	98.5%	97.3%	97.3%	97.3%	98.5%	97.5%	97.2%	97.7%	96.5%	96.3%	97.6%	95.8%
喫茶	99.7%	99.8%	100.2%	99.6%	99.9%	100.2%	99.4%	100.1%	98.1%	98.3%	98.6%	98.5%	98.8%
その他	98.1%	97.2%	99.2%	97.7%	94.3%	93.8%	96.8%	97.4%	97.8%	95.4%	98.3%	95.2%	97.5%

c. 利用客数前年同月比

	10年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月
全 体	101.5%	101.3%	102.9%	101.4%	99.4%	102.9%	103.6%	103.9%	104.4%	101.5%	102.7%	100.8%	103.6%
ファーストフード	102.3%	101.6%	105.2%	101.8%	100.1%	104.2%	104.3%	106.0%	105.4%	101.8%	104.1%	102.5%	106.2%
ファミリーレストラン	101.8%	101.9%	100.1%	101.5%	97.9%	100.6%	102.2%	98.8%	103.5%	101.0%	100.5%	98.2%	100.2%
パブレストラン/居酒屋	100.0%	97.5%	92.3%	94.8%	97.4%	100.3%	101.1%	99.1%	101.4%	102.6%	100.8%	97.3%	98.1%
ディナーレストラン	95.5%	95.9%	98.1%	97.5%	93.8%	101.1%	98.7%	94.5%	103.1%	99.1%	99.7%	95.9%	98.2%
喫茶	96.6%	99.2%	99.2%	101.4%	101.0%	102.3%	105.8%	103.1%	100.7%	101.6%	100.3%	99.3%	99.4%
その他	96.0%	97.0%	100.9%	98.9%	88.8%	96.2%	94.8%	96.6%	101.3%	93.4%	97.8%	94.4%	93.7%

d. 客単価前年同月比

	10年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11年1月	2月
全 体	98.5%	97.2%	96.8%	97.0%	98.4%	99.6%	98.1%	96.6%	98.3%	98.7%	99.2%	99.4%	98.0%
ファーストフード	99.9%	97.3%	96.8%	97.6%	100.1%	102.2%	99.4%	95.6%	97.4%	97.9%	99.6%	99.6%	96.9%
ファミリーレストラン	96.4%	97.1%	98.2%	96.9%	97.4%	97.8%	97.8%	101.1%	100.0%	99.9%	99.6%	100.6%	100.7%
パブレストラン/居酒屋	97.1%	98.6%	101.2%	98.6%	97.3%	97.1%	97.7%	99.1%	98.5%	98.5%	99.3%	99.0%	100.3%
ディナーレストラン	101.3%	101.4%	101.9%	100.3%	100.9%	101.4%	98.8%	98.8%	101.1%	100.7%	102.4%	103.4%	102.3%
喫茶	99.7%	98.0%	99.2%	98.5%	98.5%	98.9%	96.4%	99.1%	100.5%	99.2%	99.9%	99.7%	100.3%
その他	100.0%	95.9%	94.9%	95.8%	101.0%	99.8%	100.1%	98.1%	100.0%	103.9%	100.6%	101.9%	102.2%

(社団法人日本フードサービス協会ホームページより)

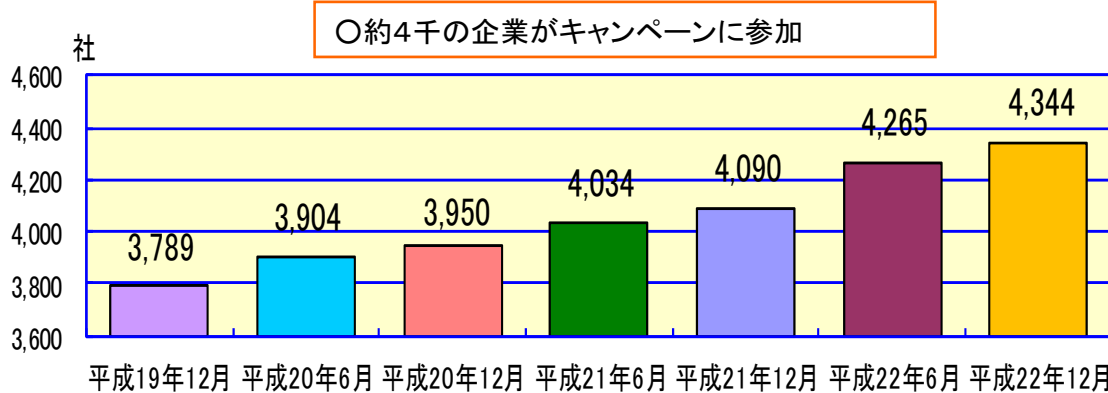
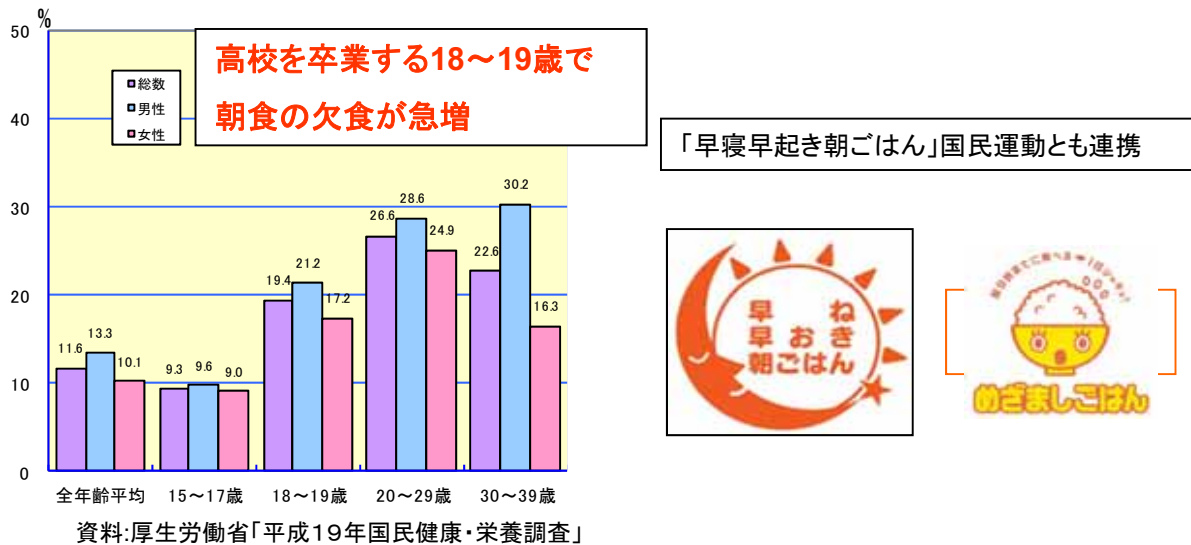
6 米消費拡大の取組 ①

「めざましごはんキャンペーン」の展開

朝食欠食の改善や米を中心とした日本型食生活の普及・啓発により食料自給率向上に資するため、各種広報媒体を活用した情報提供を実施。

また、食品関係企業、団体等(約4千社)と連携し、官民挙げてのキャンペーンを実施。

キャンペーン参加企業は、ロゴマークの商品貼付や、ポスター、CM映像等を活用し、米関連商品と連動した販促活動を実施。

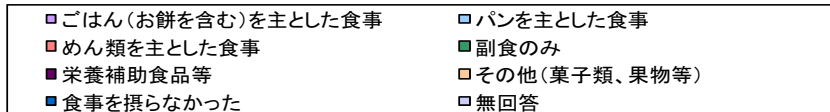
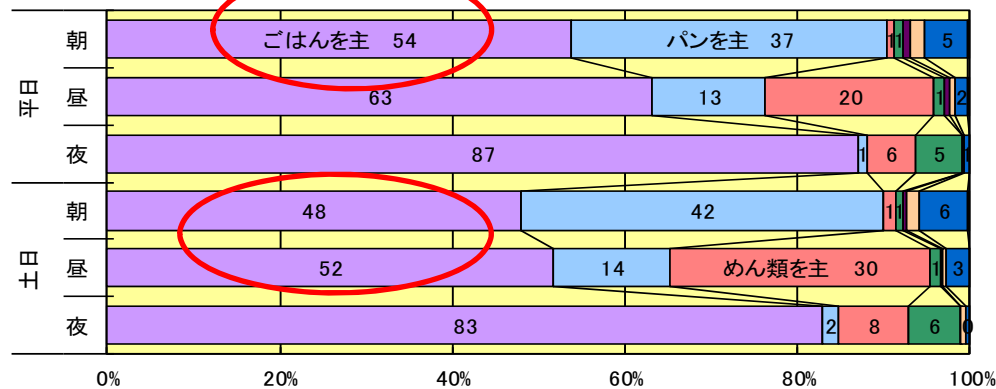


6 米消費拡大の取組 ②

朝食の内容と欠食の市場規模

- 朝食市場は、欠食が多い上に、ごはん食比率の低い市場。
- 若年層(20~30歳代、特に単身者)に多く見られる朝食の欠食は、**年間約56億食、総額約1.7兆円**の市場に相当。
- めざましごはんキャンペーン等の政府の取り組みが行われる中、平成21年の朝食欠食率は前年に比べ全国平均で1.2ポイント減少。

食事内容の構成(平成19年)



資料:平成19年度第4回食料消費モニター調査

朝食欠食の市場規模

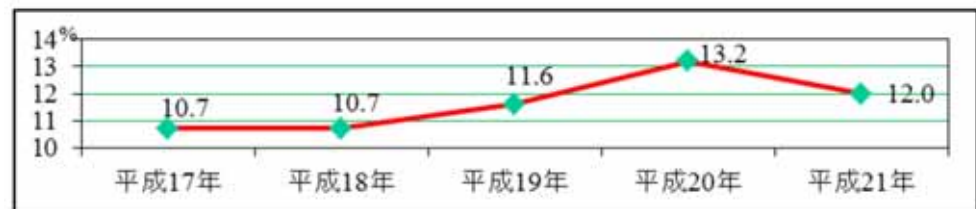
	全国平均	20歳代	30歳代	40歳代
朝食欠食率 (%)	12.0	27.6	23.2	15.5
人口(21年10月1日) (千人)	127,510	14,415	18,306	16,407
1日の欠食数 (千人)	15,301	3,979	4,247	2,543
年間欠食数 (億食)	56	15	16	9
市場規模 (億円)	16,800	4,400	4,700	2,800

資料:厚生労働省平成21年「国民健康・栄養調査結果の概要」

総務省人口推計(平成21年10月1日)

注:市場規模は、1食あたり300円として試算。

朝食欠食率(全国平均)の推移



資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査結果の概要」

6 米消費拡大の取組 ③

米飯学校給食実施回数の新たな目標

文部科学省は、平成21年3月に米飯学校給食の新たな目標として「週3回以上」(週3回以上の地域や学校については、週4回などの目標設定を促す)を通知。

学校における米飯給食の推進について

平成21年3月31日
文部科学省スポーツ・青少年局長通知(抜粋)

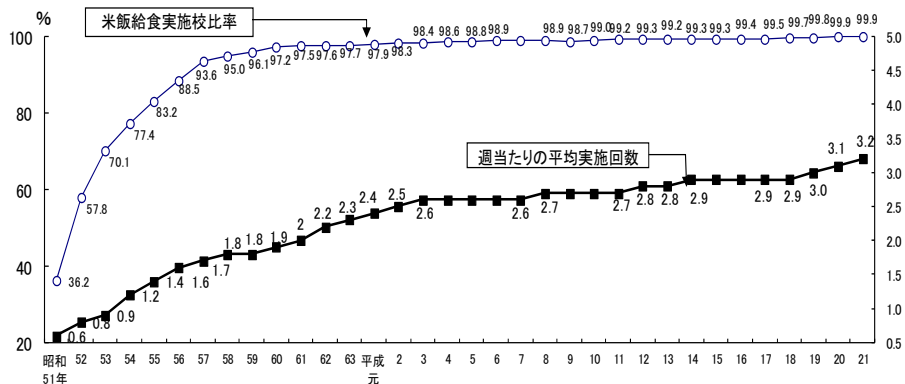
米飯給食の推進については、週3回以上を目標として推進するものとする。この場合、地場産物の活用推進の観点から、地場産の米や小麦を活用したパン給食など、地域の特性を踏まえた取組にも配慮する。

また、地域や学校の事情等により実施回数が異なっている現状にかんがみ、以下のように、地域や学校の事情等に応じた段階的、漸進的な実施回数の増加を促すこととする。

(1) 大都市等実施回数が週3回未満の地域や学校については、週3回程度への実施回数の増加を図る。

(2) 既に過半を占める週3回以上の地域や学校については、週4回程度などの新たな目標を設定し、実施回数の増加を図る。

○ 米飯学校給食実施回数の推移(平成21年度3. 2回)



出典：米飯給食実施状況調査(平成21年度調査：文部科学省)

農林水産省の取組

米飯学校給食は、味覚を育む子どもたちに米を中心とした「日本型食生活」の普及・定着を図る上で重要。
農林水産省は、文部科学省と連携して、米飯学校給食を一層普及・推進。

米飯学校給食情報交換会・メニュー講座及びごはんで給食先進事例等の開催

- ・大都市部(東京、大阪、神奈川、埼玉を想定)で、学校給食関係者に対して米飯給食の効用等を普及・啓発する「米飯学校給食情報交換会」、米飯給食メニューの普及を図る「メニュー講座」を開催
- ・全国各地の米飯学校給食の優良事例を、全国に紹介する「ごはんで給食先進事例」を実施

政府備蓄米の無償交付

米飯学校給食を増加させようとする学校等に対し、回数の対前年度純増分全量を政府備蓄米(直近年産米)で無償交付

給食関係者への要請活動

全国の農政局や農政事務所から、市町村等の学校給食関係者へ米飯学校給食の一層の推進を要請



(参考) 米消費拡大の新たな動き(三洋電機ライスブレッドクッカー「GOPAN」について)



- 販売価格 5万円程度
- 1斤分の材料
 - ・米 220g
 - ・水 200g
 - ・グルテン 50g
 - ・ショートニング、ドライイースト他
 - ・1斤当たり148円

〔参考：米粉パン(米粉ミックス粉を使用した場合)〕
1斤当たり 336円

「GOPAN」に搭載されている米パンを製造するための世界初の新技術

米ペースト製法



米を粉状にするのではなく、米と水を切削・攪拌し、ペースト状にして生地をつくる技術を開発

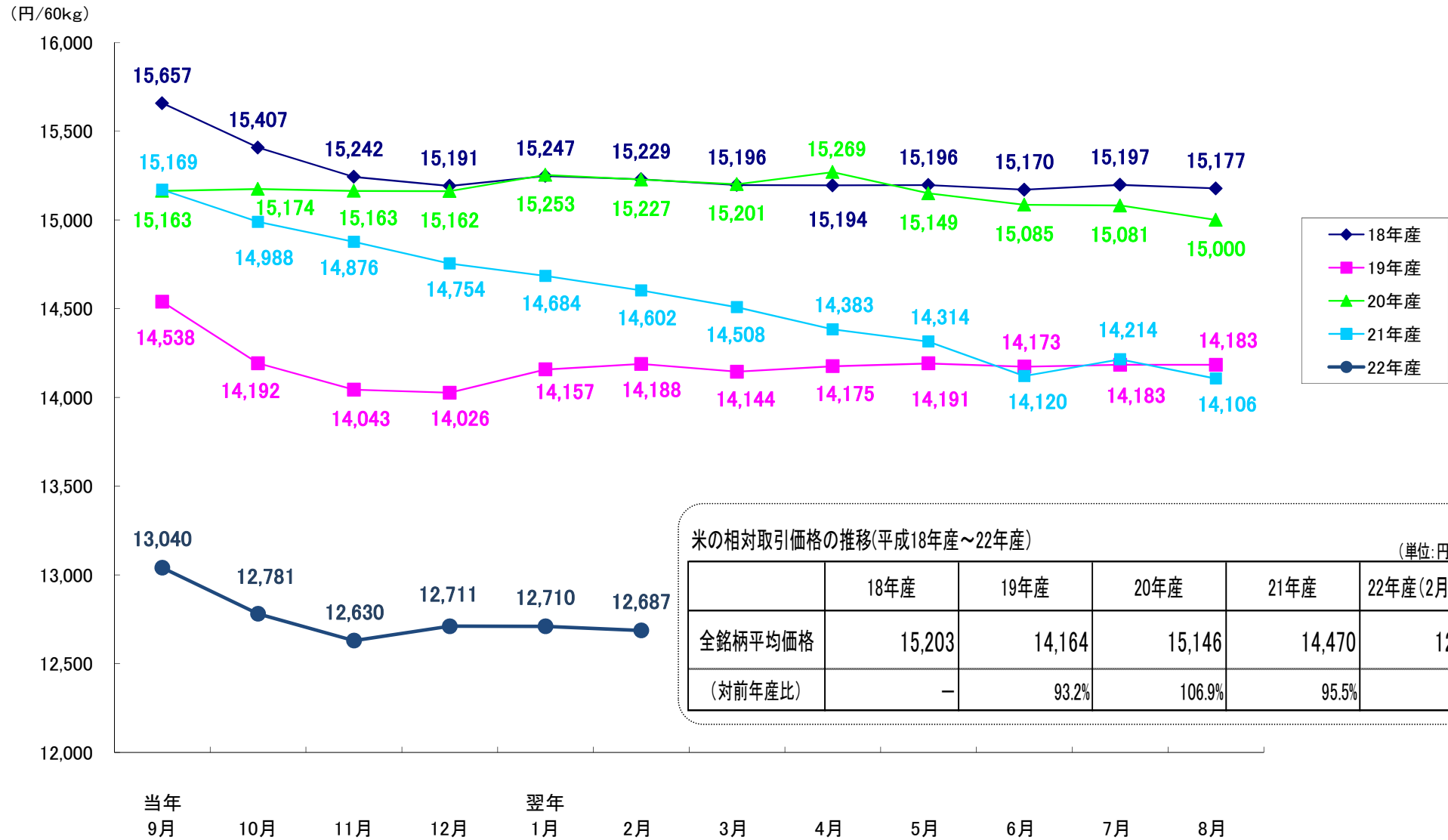
正逆回転モーター機構



米を切削する工程、生地をこねる工程、それぞれに求められる異なる2つの回転数を1つの回転軸で実現

7 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産~22年産)

相対取引価格月別全銘柄平均の推移

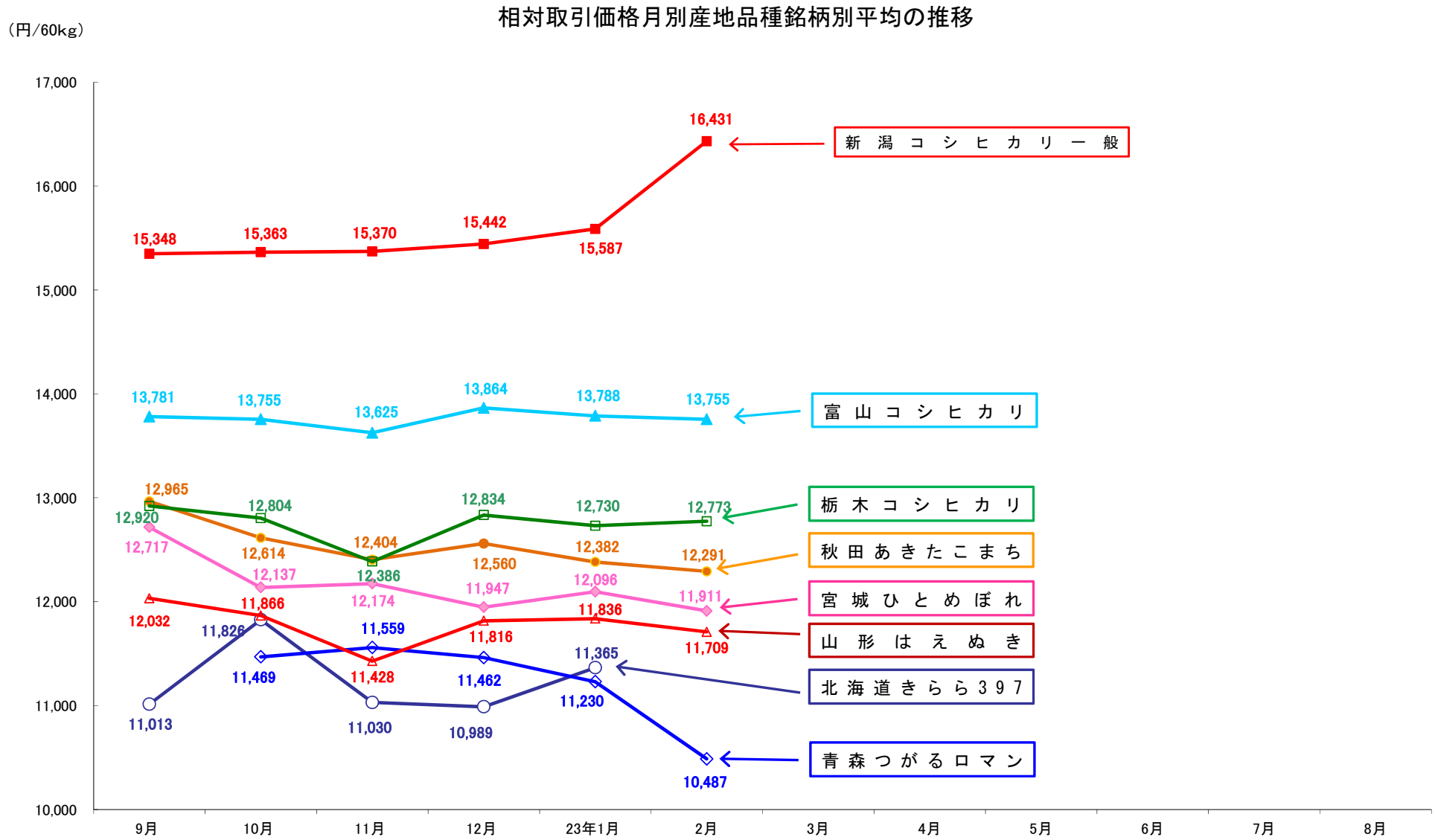


資料：農林水産省調べ

注1：価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

注2：産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

8 平成22年産米の相対取引価格の推移



資料：農林水産省調べ
 (注意) 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

9 平成22年産米の相対取引価格(出荷業者)(速報:23年2月)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	地域区分	23年2月 ①	参考			
				23年1月 ②	22年2月		対前年比 ①/③
					対前月比 ①/②	③	
北海道	ななつぼし		11,549	11,449	101%	13,959	83%
青森	つがるロマン		10,487	11,230	93%	13,623	77%
青森	まっしぐら		10,301	10,613	97%	13,397	77%
岩手	ひとめぼれ		12,070	12,006	101%	14,483	83%
岩手	あきたこまち		12,091	11,978	101%	14,266	85%
宮城	ひとめぼれ		11,911	12,096	98%	14,796	81%
宮城	ササニシキ		12,068	12,313	98%	-	-
秋田	あきたこまち		12,291	12,382	99%	14,646	84%
山形	はえぬき		11,709	11,836	99%	14,117	83%
福島	コシヒカリ	中通り	12,248	12,672	97%	14,145	87%
福島	コシヒカリ	会津	13,440	13,597	99%	15,102	89%
福島	コシヒカリ	浜通り	12,439	12,744	98%	-	-
福島	ひとめぼれ		10,982	11,489	96%	14,117	78%
茨城	コシヒカリ		12,923	13,096	99%	14,568	89%
栃木	コシヒカリ		12,773	12,730	100%	14,439	88%
千葉	コシヒカリ		13,218	12,909	102%	14,392	92%
長野	コシヒカリ		13,804	13,574	102%	15,052	92%
長野	あきたこまち		12,425	12,359	101%	-	-
新潟	コシヒカリ	一般	16,431	15,587	105%	16,223	101%
新潟	コシヒカリ	魚沼	21,824	21,769	100%	-	-

産地	品種銘柄	地域区分	23年2月 ①	参考			
				23年1月 ②	22年2月		対前年比 ①/③
					対前月比 ①/②	③	
富山	コシヒカリ		13,755	13,788	100%	15,161	91%
石川	コシヒカリ		13,252	13,334	99%	-	-
福井	コシヒカリ		13,432	13,089	103%	14,936	90%
福井	ハナエチゼン		12,030	12,036	100%	-	-
岐阜	コシヒカリ		13,745	13,661	101%	-	-
滋賀	コシヒカリ		13,193	13,215	100%	14,330	92%
滋賀	キヌヒカリ		11,837	11,844	100%	13,832	86%
兵庫	コシヒカリ		13,646	13,756	99%	-	-
鳥取	コシヒカリ		13,010	12,959	100%	-	-
鳥取	ひとめぼれ		12,162	11,659	104%	-	-
島根	コシヒカリ		13,346	13,366	100%	-	-
岡山	アケボノ		11,239	-	-	-	-
広島	コシヒカリ		12,347	-	-	-	-
山口	コシヒカリ		12,879	12,824	100%	-	-
香川	ヒノヒカリ		11,403	11,453	100%	13,896	82%
福岡	ヒノヒカリ		11,896	12,177	98%	14,514	82%
佐賀	夢しずく		12,015	-	-	13,958	86%
熊本	コシヒカリ		12,929	-	-	-	-
大分	ヒノヒカリ		11,798	12,175	97%	14,085	84%
全銘柄平均価格			12,687	12,710	100%	14,602	87%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1)相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。

その際、新潟、長野、静岡以东(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2)また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

3)産地品種銘柄は、21年産の公表対象産地品種銘柄または公表対象となっていなかった府県の21年産検査数量上位の1品種銘柄で、かつ、月1,000トン以上の取引があったものである。

4)全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

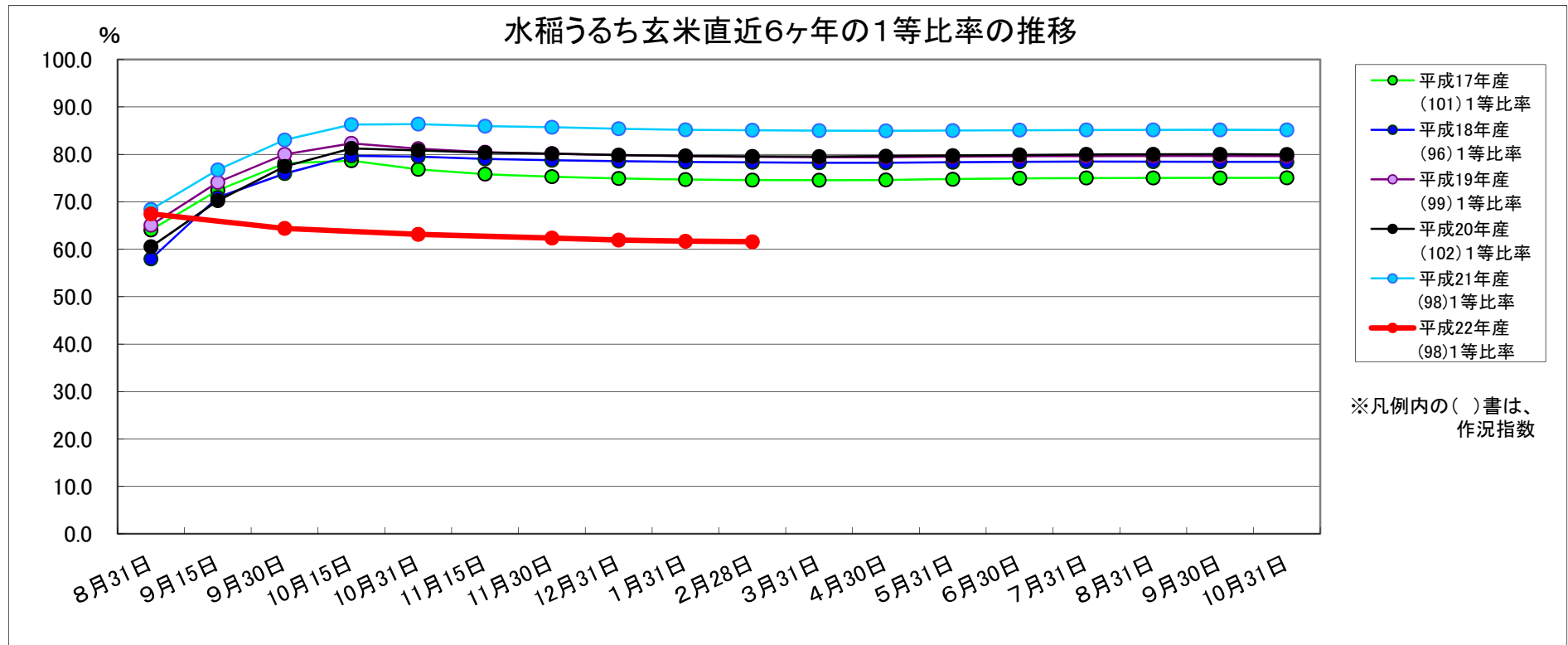
5)22年2月は21年産の価格である。

10 平成22年産水稻うるち玄米の1等比率

○国内産水稻うるち玄米の平成11年産～22年産における1等級比率 (単位:%)

	平成22年産	21年産	20年産	19年産	18年産	17年産
8月31日	67.5	68.4	60.5	65.1	58.0	64.1
9月30日	64.4	83.0	77.5	80.0	75.9	78.1
10月31日	63.1	86.4	80.8	81.2	79.5	76.8
11月30日	62.4	85.7	80.2	80.2	78.8	75.3
12月31日	61.9	85.4	79.9	79.8	78.6	74.9
1月31日	61.7	85.2	79.7	79.7	78.4	74.7
2月28日	61.6	85.1	79.6	79.5	78.3	74.6
最終		85.1	80.0	79.6	78.4	75.0

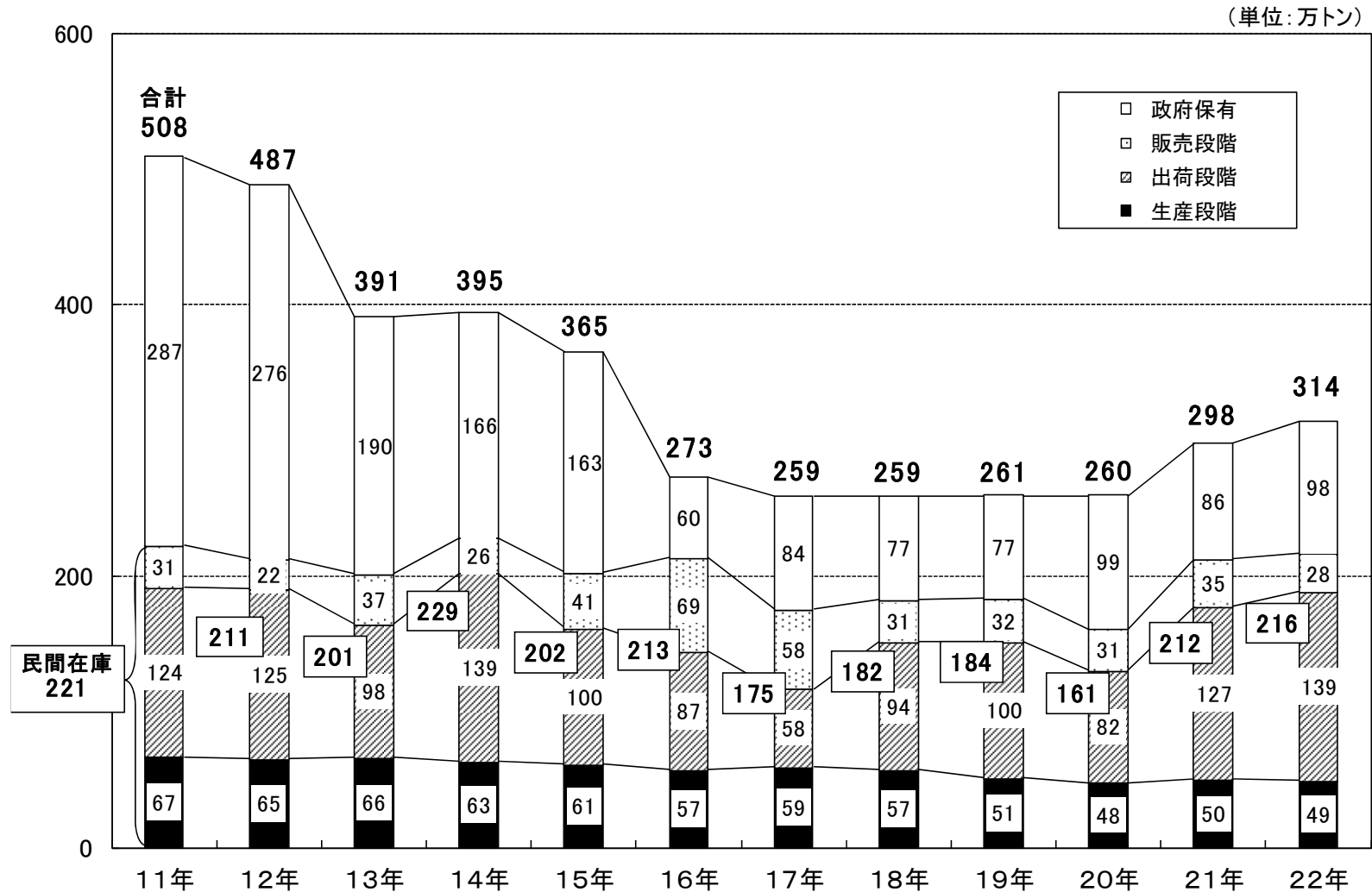
資料：農林水産省とりまとめ。
 注1：「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合。
 注2：「最終」は、翌年10月31日現在。



(2) 米の備蓄について

11	政府及び民間流通における6月末在庫の推移	17
12	政府備蓄米の在庫の状況	18
13	需要実績及び民間在庫の推移	19
14	政府備蓄米の主食用販売状況	20
15	棚上備蓄への円滑な移行準備	21
16	23年産米の政府備蓄米の買入（作付前契約）	22
17	過剰米対策基金（321億円）の活用	23

11 政府及び民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

① 16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

② 15年については、

- ・ 販売段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の旧登録卸売業者と1,000トン以上の旧登録小売業者の数量である。

- ・ 出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③ 14年以前については推計値であり、

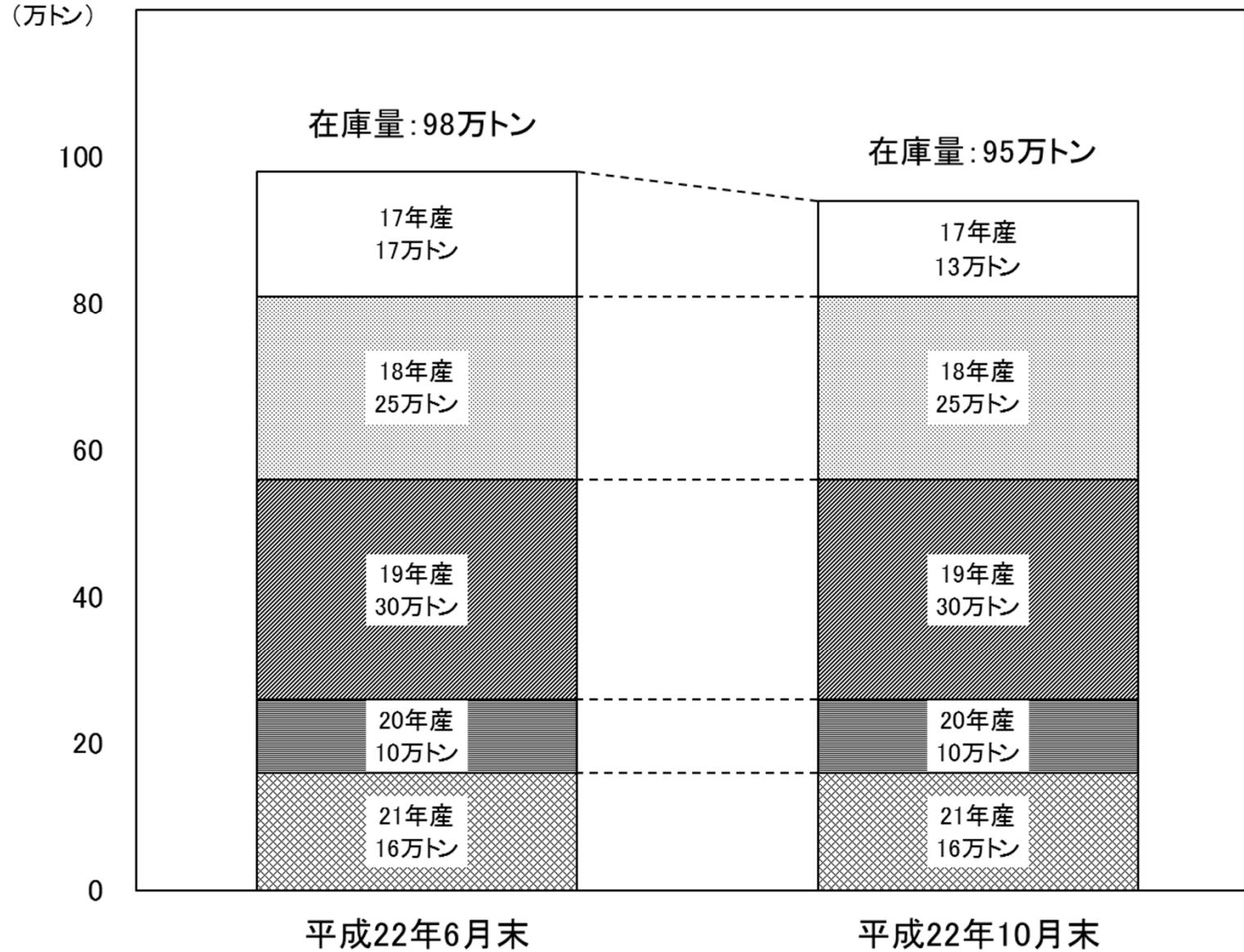
- ・ 販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

- ・ 出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

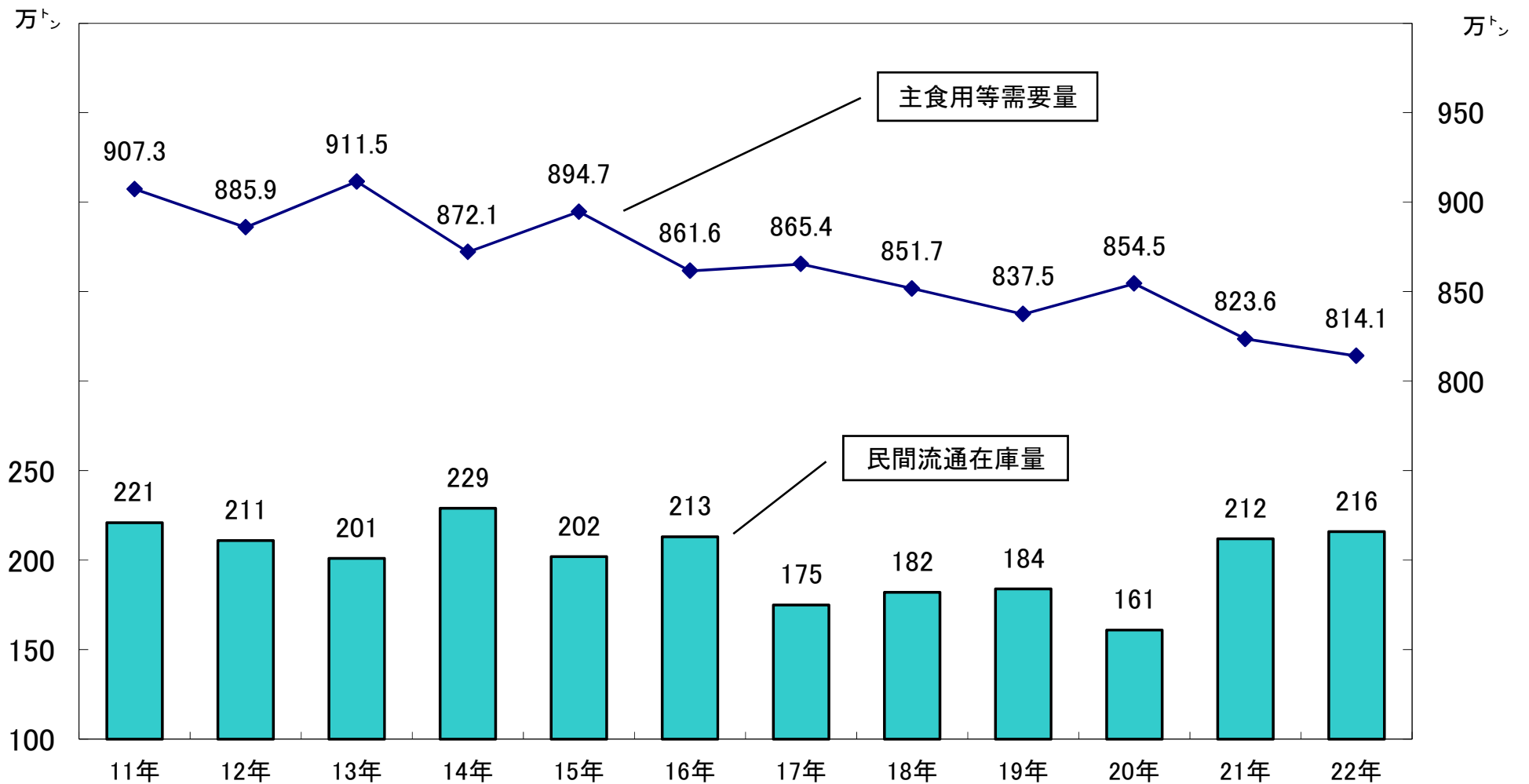
3) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

12 政府備蓄米の在庫の状況(平成22年10月末現在)



注:ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

13 需要実績及び民間在庫の推移



資料：農林水産省調べ
(注1) 主食用等需要量は前年7月から当年6月までの需要実績である。
(注2) 民間流通在庫量は当年6月末現在の数値である。

14 政府備蓄米の主食用販売状況

政府備蓄米の主食用販売状況

(単位:千トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	-	-	-	-	3

注1：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

注2：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。

15 棚上備蓄への円滑な移行準備

【趣 旨】

米の政府備蓄については、23年度からの棚上備蓄への移行が認められたところであるが、政府が保有していた17年産米(13万ト)については品質劣化(古米臭等)により主食用としての販売が見込めない状況。

このため、17年産米の22年産米への差替えを行い、23年度からの棚上備蓄への円滑な移行を図った。

【取組内容】

- 17年産米飼料用等売却
 - ・ 飼料用等売却数量 13万トン
- 22年産米買入
 - ・ 買入契約数量 10万トン
 - ・ 入札結果：
 - 2月 4日 第1回入札実施(落札なし)
 - 2月23日 第2回入札実施(34,520トン落札)
 - 3月 8日 第3回入札実施(66,571トン落札)

16 23年産米の政府備蓄米の買入(作付前契約)

【趣 旨】

米の政府備蓄については、23年度から棚上備蓄への移行が認められたところ。
農家の営農計画に反映出来るよう作付までの事前契約により買入(現在は震災に伴い中止中)。

【取組内容】

○ 棚上備蓄のしくみ

- ・ 適正備蓄水準は100万トン程度(6月末)として国内産米を一定期間(5年間程度)備蓄
- ・ 作付前の事前契約により一般競争入札で毎年20万トン買入
- ・ 不作により米が不足するときには、備蓄米を放出し、消費者への安定供給を確保
- ・ 放出を要する不足時以外は、備蓄後に飼料用等の非主食用として販売(毎年20万トン)

○ 23年産米買入

- ・ 買入予定数量 20万トン
- ・ 買入対象銘柄 一般に主食用として流通している銘柄
- ・ 買 入 価 格 主食用米の価格を基本とした全国一律の予定価格の下で入札により決定

・ 入札スケジュール

2月25日 第1回入札

(一般枠 24,172トン落札
優先枠 29,230トン落札)

3月14日 第2回入札中止

以降の入札については検討中

(参考) 23年産米の生産数量目標の配分に伴う激変緩和措置

優先入札枠 : 60,800トン

対 象 : 23年産米の生産数量目標の減少率が
全国平均(▲2.2%)を超える18都道府県

入 札 方 法 : 優先入札枠については他の府県と競争
なしに落札者を決定

17 過剰米対策基金(321億円)の活用

【趣 旨】

生産者団体等自らが、集荷円滑化対策の過剰米対策基金を活用して、主食用米を飼料用等に処理

【取組内容】

- ・実施主体 : (社)米穀安定供給確保支援機構
- ・対象米穀 : 平成22年産米 (1~3等が基本)
- ・処理方法 : 米穀機構が買い取り、飼料用又はバイオエタノール用に処理
- ・買取価格 : 1等米 10,500円/60kg (税別)
(2等米、3等米はそれぞれ500円/60kgずつ格差を設定)
- ・買取数量 : 170,952トン
(うち 全農:165,596トン、全集連:5,351トン、その他:5トン)

道府県別契約数量

(百トン)

都道府県	数量	都道府県	数量
北海道	191	滋賀県	48
青森県	131	京都府	10
岩手県	88	大阪府	—
宮城県	178	兵庫県	1
秋田県	128	奈良県	2
山形県	151	和歌山県	—
福島県	12	鳥取県	18
茨城県	27	島根県	3
栃木県	111	岡山県	19
群馬県	25	広島県	20
埼玉県	14	山口県	38
千葉県	10	徳島県	2
東京都	—	香川県	18
神奈川県	—	愛媛県	6
新潟県	53	高知県	—
富山県	45	福岡県	45
石川県	43	佐賀県	40
福井県	39	長崎県	2
山梨県	—	熊本県	48
長野県	10	大分県	28
岐阜県	32	宮崎県	16
静岡県	0	鹿児島県	16
愛知県	19	沖縄県	—
三重県	20	全国計	1,710

注1: 米穀機構が買入契約を締結した1等米から規格外米までの総数量(1等932百トン、2等619百トン、3等159百トン、規格外0.01百トン)である。

注2: ラウンドの関係で、合計と内訳は一致しない。

(3) 米の輸出について

18	商業用のコメの輸出数量等の推移	24
19	中国向け米輸出拡大に向けた取組	25

18 商業用のコメの輸出数量等の推移

- 2010年の輸出数量は1,898トン（対前年比45%増）、輸出金額は約6億9千万円（対前年比27%増）となった。
- 国別の輸出数量は、主要な輸出先である香港、シンガポールで順調に増加したほか、オーストラリア、中国、ロシア、ドイツ及びアメリカで大幅に増加した。

	2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	634 (+55%)	320 (+36%)	967 (+53%)	427 (+34%)	940 (-3%)	527 (+24%)	1,294 (+34%)	641 (+50%)	1,312 (+1%)	545 (-15%)	1,898 (+45%)	691 (+27%)
香港	99	57	155	74	218	119	341	172	481 (+41%)	206 (+20%)	654 (+36%)	249 (+21%)
シンガポール	63	35	63	40	92	48	173	81	185 (+7%)	79 (-2%)	334 (+81%)	126 (+59%)
台湾	413	169	593	161	450	175	453	168	333 (-26%)	115 (-31%)	271 (-19%)	95 (-18%)
オーストラリア	0	0	0	1	1	1	22	4	36 (+64%)	10 (+138%)	125 (+247%)	32 (+217%)
中国	0	0	2	7	72	43	90	52	30 (-67%)	14 (-73%)	96 (+220%)	43 (+204%)
ロシア	0	0	0	1	4	3	63	28	10 (-84%)	4 (-87%)	52 (+420%)	14 (+287%)
ドイツ	0	0	0	4	0	4	1	5	7 (+600%)	4 (-21%)	50 (+614%)	14 (+270%)
アメリカ	16	25	128	99	41	71	26	49	17 (-35%)	28 (-42%)	39 (+129%)	25 (-10%)
イギリス	6	9	4	16	4	18	9	18	26 (+189%)	15 (-17%)	36 (+38%)	14 (-5%)
フランス	3	2	1	10	3	14	5	9	34 (+580%)	16 (+65%)	26 (-24%)	11 (-30%)
その他	34	22	21	14	55	32	111	54	153 (+38%)	54 (-1%)	215 (+41%)	69 (+29%)

資料：財務省「貿易統計」

注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

注2：「その他」に含まれる国は、アルジェリア、オーストリア、スイスなど28ヶ国。

注3：援助用と推察されるものを除いているほか、数量は1トン未満、金額は20万円未満は計上されていない。

19 中国向け米輸出拡大に向けた取組

- 平成22年12月に筒井副大臣が訪中し、中国農業発展集団が米を含む日本産農林水産品などの中国への輸入拡大に積極的に努めることを内容とする覚書を締結。
- これを受けて、平成23年1月26日に中国農業発展集団が来日し、1月28日に中国輸出促進会議、1月31日に米輸出ビジネス懇談会を開催。
- また、現行の検疫条件の下でも輸出数量が拡大するよう登録くん蒸倉庫等を増やすための支援を実施。

覚書の内容を具現化するため、ビジネス懇談会等を実施。

○ 中国輸出促進会議(1月28日)

中国での日本産農林水産物の展示販売等に関して、中国農業発展集団が関係団体等に説明。

○ 対中国米輸出ビジネス懇談会(1月31日)

中国への米の輸入・販売等に関して、中国農業発展集団が中国への米輸出に関心を持つ関係団体等に説明。

輸出拡大に向けた条件整備を実施。

- 平成22年度においては、くん蒸倉庫の登録に必要なカツオブシムシ類のトラップ調査に対して支援。

(トラップ調査を実施する倉庫の所在地)

北海道：小樽市
東北：山形県酒田市
関東：静岡市
北陸：新潟市
東海：三重県四日市市
近畿：京都府舞鶴市
中国四国：広島県福山市
九州：熊本市

- 平成23年度においては、指定精米工場及び登録くん蒸倉庫を増やすため、同様の支援を実施する予定。

(4) 米の需給調整について

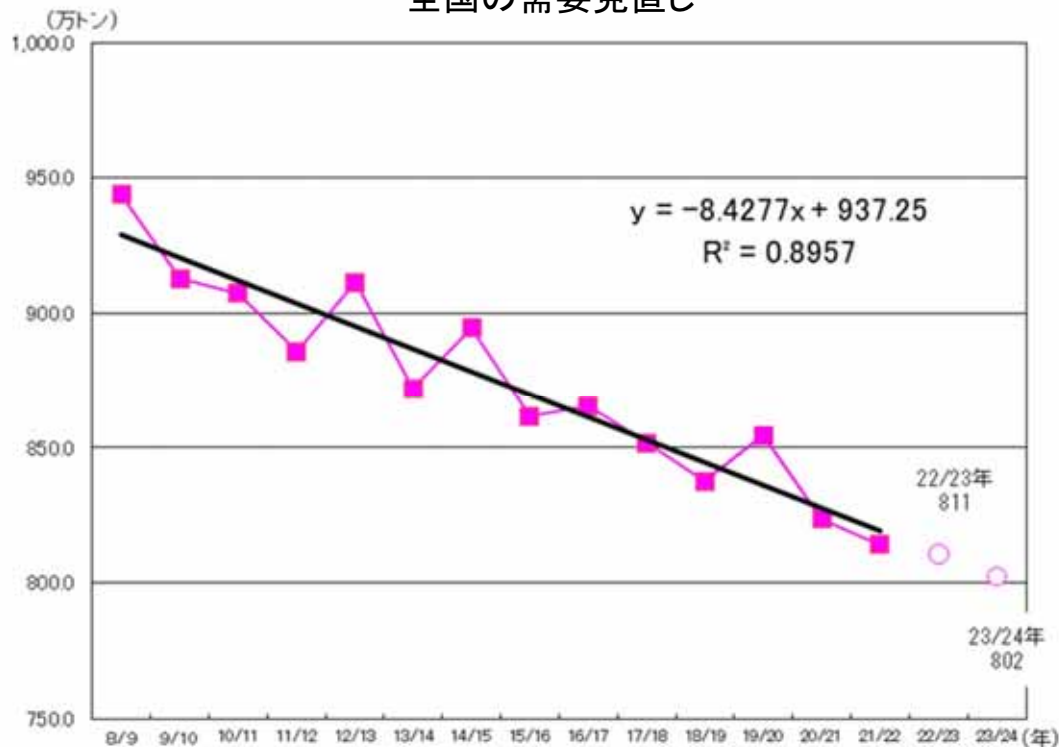
20	平成23年産米の都道府県別生産数量目標の設定について	26
21	備蓄米の優先入札枠について	29
22	全国の需給調整の取組状況の推移	30
23	平成22年産米における都道府県別の需給調整の取組状況	31
24	販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数	32

20 平成23年産米の都道府県別生産数量目標の設定について ①

- 都道府県別生産数量目標は、需要に見合った生産へと誘導することが大原則であり、食糧法改正後の平成16年産米以降、全国の生産数量目標を、都道府県別の需要実績に基づいて按分することで配分してきたところ。
- 全国の生産数量目標は、8/9年以降の全国の需要実績を用い、トレンド(回帰式)により算定した需要見通しを基に設定。
- 平成23年産米の全国の生産数量目標については、近年の需給動向による生じている変動幅を加味し、需要見通しから7万トンを控除して795万トンに設定。

全国の生産数量目標の設定方法

全国の需要見直し



注意：「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」（平成22年11月）より抜粋

【設定の考え方】

全国の平成23/24年の需要見通しは802万トンと想定されるものの、近年の需要見通しと需要実績を比較した場合、需給動向による変動幅が生じていることを踏まえ、23/24年の需要見通しから7万トン控除することとし、全国の23年産米の生産数量目標は795万トンに設定。

「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」（平成22年11月）より抜粋

20 平成23年産米の都道府県別生産数量目標の設定について ②

- 都道府県別の生産数量の配分に当たっては、従来、需要実績を基礎としつつ、目標達成県への配慮の観点から、未達成県に目標の削減を過重し、その分達成県の目標を増やす等の措置を講じてきた。
- この結果、需要が伴わない生産が行われ、その販売に苦勞するといった事例が各地で生じてきたほか、未達成地域では需給調整に参加することができず、結果として需給調整が円滑に進まなかったところ。
- このため、平成22年産からスタートした戸別所得補償制度下においては、従来のペナルティ措置を廃止し、需給調整に参加した者に交付金を交付するというメリット措置により需給調整を誘導する方針に転換。23年産米の生産数量目標は、原則どおり、各都道府県の需要実績のみを基に配分。

需要実績に基づく都道府県別生産数量目標の算定ルール

1 年ごとの需要実績の算定

民間流通米の需要実績
＝ 主食用米の生産量(※)－ 6月末在庫の増減数量 ＋ 政府米販売数量

(※)主食用米の生産量＝水稲収穫量－加工用米－新規需要米－政府買入数量
ただし、主食用米の生産量は、豊凶による生産量の増減や過剰作付けによる生産量の増加を補正

2 上記1の需要実績の直近6カ年(16/17年～21/22年)の中庸4年分を平均した数値に基づき都道府県ごとのシェアを算出し、全国生産数量目標で按分

全国の生産数量目標 × 都道府県ごとの需要実績シェア

都道府県別の生産数量目標

これまでのペナルティ措置

○ 生産数量目標の設定における未達成県へのペナルティ

生産数量目標の配分にあたって、生産数量目標をオーバーした場合に、前年の過剰作付分を目標から控除する等の事後的な調整・ペナルティ的措置を実施

○ 米関連補助事業の優先採択措置

生産数量目標に即して生産した地域に対する、米関連補助事業の採択・予算配分に関する優先採択措置

ペナルティ的措置を廃止
(22年産以降)

20 平成23年産米の都道府県別生産数量目標の設定について ③

○ 22年産米と23年産米の生産数量目標の比較

	22年産米の 生産数量目標		23年産米の 生産数量目標		前年産との差		
	面積換算値		面積換算値		削減率	面積換算値	
	トン	ha	トン	ha			
北海道	604,510	112,990	584,180	109,190	▲ 20,330	▲ 3.4	▲ 3,800
青森	267,300	46,090	262,950	45,340	▲ 4,350	▲ 1.6	▲ 750
岩手	295,240	55,390	282,020	52,910	▲ 13,220	▲ 4.5	▲ 2,480
宮城	382,210	72,120	367,950	69,420	▲ 14,260	▲ 3.7	▲ 2,700
秋田	461,870	80,610	440,420	76,860	▲ 21,450	▲ 4.6	▲ 3,750
山形	381,170	64,170	368,930	62,110	▲ 12,240	▲ 3.2	▲ 2,060
福島	365,020	67,970	363,680	67,720	▲ 1,340	▲ 0.4	▲ 250
茨城	355,390	68,340	356,480	68,550	1,090	0.3	210
栃木	321,790	59,700	323,420	60,000	1,630	0.5	300
群馬	83,250	16,850	81,860	16,570	▲ 1,390	▲ 1.7	▲ 280
埼玉	161,280	32,710	161,020	32,660	▲ 260	▲ 0.2	▲ 50
千葉	262,150	49,180	259,450	48,680	▲ 2,700	▲ 1.0	▲ 500
東京	930	230	780	190	▲ 150	▲ 16.1	▲ 40
神奈川	14,940	3,060	14,890	3,040	▲ 50	▲ 0.3	▲ 20
新潟	557,830	103,490	548,380	101,740	▲ 9,450	▲ 1.7	▲ 1,750
富山	206,730	38,640	195,980	36,630	▲ 10,750	▲ 5.2	▲ 2,010
石川	132,430	25,520	129,970	25,040	▲ 2,460	▲ 1.9	▲ 480
福井	136,060	26,320	133,410	25,800	▲ 2,650	▲ 1.9	▲ 520
山梨	28,750	5,260	28,790	5,260	40	0.1	0
長野	205,900	33,050	202,310	32,470	▲ 3,590	▲ 1.7	▲ 580
岐阜	122,770	25,160	120,650	24,720	▲ 2,120	▲ 1.7	▲ 440
静岡	87,390	16,770	87,430	16,780	40	0.0	10
愛知	144,250	28,450	142,540	28,110	▲ 1,710	▲ 1.2	▲ 340
三重	150,260	30,050	150,590	30,120	330	0.2	70

	22年産米の 生産数量目標		23年産米の 生産数量目標		前年産との差		
	面積換算値		面積換算値		削減率	面積換算値	
	トン	ha	トン	ha			
滋賀	174,460	33,680	169,410	32,700	▲ 5,050	▲ 2.9	▲ 980
京都	80,720	15,800	79,650	15,590	▲ 1,070	▲ 1.3	▲ 210
大阪	28,000	5,680	27,810	5,620	▲ 190	▲ 0.7	▲ 60
兵庫	193,010	38,300	190,970	37,890	▲ 2,040	▲ 1.1	▲ 410
奈良	43,630	8,500	43,890	8,560	260	0.6	60
和歌山	37,130	7,530	37,050	7,480	▲ 80	▲ 0.2	▲ 50
鳥取	72,360	14,080	71,400	13,890	▲ 960	▲ 1.3	▲ 190
島根	98,000	19,250	96,640	18,990	▲ 1,360	▲ 1.4	▲ 260
岡山	167,230	31,790	167,350	31,820	120	0.1	30
広島	138,090	26,400	132,980	25,430	▲ 5,110	▲ 3.7	▲ 970
山口	121,630	24,130	113,810	22,580	▲ 7,820	▲ 6.4	▲ 1,550
徳島	60,880	12,840	60,850	12,840	▲ 30	▲ 0.0	0
香川	76,490	15,330	73,550	14,740	▲ 2,940	▲ 3.8	▲ 590
愛媛	79,680	16,000	76,900	15,440	▲ 2,780	▲ 3.5	▲ 560
高知	52,070	11,340	52,800	11,500	730	1.4	160
福岡	197,350	39,550	191,750	38,430	▲ 5,600	▲ 2.8	▲ 1,120
佐賀	152,220	28,880	143,180	27,170	▲ 9,040	▲ 5.9	▲ 1,710
長崎	67,120	14,160	65,800	13,820	▲ 1,320	▲ 2.0	▲ 340
熊本	207,080	40,210	202,020	39,230	▲ 5,060	▲ 2.4	▲ 980
大分	126,910	25,230	123,860	24,620	▲ 3,050	▲ 2.4	▲ 610
宮崎	102,940	20,880	100,130	20,230	▲ 2,810	▲ 2.7	▲ 650
鹿児島	120,360	25,130	117,020	24,430	▲ 3,340	▲ 2.8	▲ 700
沖縄	3,210	1,040	3,090	1,000	▲ 120	▲ 3.7	▲ 40
全国	8,129,990	1,537,850	7,949,990	1,503,910	▲ 180,000	▲ 2.2	▲ 33,940

注：22年産米の生産数量目標は、都道府県間調整前の数値。

21 備蓄米の優先入札枠について

- 備蓄米の買入数量は入札により決定されるものであるが、23年産米については、生産数量目標を需要実績を基礎に配分した結果、前年に比べ大幅に減少した県に配慮し、23年産米に限り備蓄米の優先入札枠を設定。
- また、地域としての米の生産の戦略的な取組の中で対応することが重要であることから、地域の判断により地域の実情に即した支援を行う「産地資金」の中で、備蓄米に対する助成を行うことが可能となるよう措置。

1 備蓄米の優先入札枠の設定

優先入札枠：60,800トン

対象県：23年産米の生産数量目標の減少率が全国平均（▲2.2%）を超える18都道県

入札方法：優先入札枠については、他の都道府県と競争なしに、落札者を決定

支援措置：優先入札枠に対して、15,000円/10aが行き渡るよう産地資金を配分（下記51億円の内数）

2 産地資金の増枠

増枠の額：51億円

県別配分：米の生産数量目標の減少の大きな県に対し、より大きな配分を行えるよう設定

活用方法：県（地域）の判断で、備蓄米、麦・大豆等のいずれでも活用可

備蓄米の優先入札枠の内訳

	22年産米の生産数量目標(t) ①	23年産米の生産数量目標(t) ②	増減 (t) ②-①	増減率(%)	優先入札枠 (t) (③-2.2%)
				③	
北海道	604,510	584,180	▲ 20,330	▲ 3.4	7,000
岩手	295,240	282,020	▲ 13,220	▲ 4.5	6,700
宮城	382,210	367,950	▲ 14,260	▲ 3.7	5,900
秋田	461,870	440,420	▲ 21,450	▲ 4.6	11,300
山形	381,170	368,930	▲ 12,240	▲ 3.2	3,900
東京	930	780	▲ 150	▲ 16.1	100
富山	206,730	195,980	▲ 10,750	▲ 5.2	6,200
滋賀	174,460	169,410	▲ 5,050	▲ 2.9	1,200
広島	138,090	132,980	▲ 5,110	▲ 3.7	2,100
山口	121,630	113,810	▲ 7,820	▲ 6.4	5,100
香川	76,490	73,550	▲ 2,940	▲ 3.8	1,300
愛媛	79,680	76,900	▲ 2,780	▲ 3.5	1,000
福岡	197,350	191,750	▲ 5,600	▲ 2.8	1,300
佐賀	152,220	143,180	▲ 9,040	▲ 5.9	5,700
熊本	207,080	202,020	▲ 5,060	▲ 2.4	500
大分	126,910	123,860	▲ 3,050	▲ 2.4	300
宮崎	102,940	100,130	▲ 2,810	▲ 2.7	500
鹿児島	120,360	117,020	▲ 3,340	▲ 2.8	700
全国	8,129,990	7,949,990	▲ 180,000	▲ 2.2	60,800

22 全国の需給調整の取組状況の推移(平成16年産～22年産)

年産	生産数量目標 ① 万トン	実生産量 ② 万トン	目標超過 数量 ②-① 万トン	①を面積換算 したもの ③ 万ha	実作付面積 ④ 万ha	過剰作付 面積 ④-③ 万ha	作況 指数 ⑤
16	857.4	859.9	2.4	163.3	165.8	2.5	98
17	851.0	893.3	42.3	161.5	165.2	3.7	101
18	833.1	839.7	6.6	157.5	164.3	6.8	96
19	828.5	854.0	25.6	156.6	163.7	7.1	99
20	815.0	865.4	50.4	154.2	159.6	5.4	102
21	815.0	831.0	16.0	154.3	159.2	4.9	98
22	813.0	823.9	10.9	153.9	158.0	4.1	98

注1:①の生産数量目標は、集荷円滑化対策による区分出荷(平成18年産)及び消費純増策(～平成19年産)による補正を行った後の数値。

注2:②の実生産量は、統計部公表の収穫量から加工用米の集荷実績数量及び新規需要米(平成20年産以降)の取組計画認定数量を控除したもの。

注3:④の実作付面積は、統計公表の水稲作付面積から加工用米・新規需要米等の取組計画認定面積を控除したもの。

注4:22年産の②の実生産量、④の実作付面積(平成20～22年産)及び⑤の作況指数は、平成22年12月8日統計部公表の「平成22年産水陸稲の収穫量」の参考値(「予想収穫量(主食用)」、「主食用作付見込面積」及び「作況指数」)。

23 平成22年産米における都道府県別の需給調整の取組状況

都道府県名	生産数量 目標 ①	①を 面積換算 したもの ②	全水稲作付 面積 ③	加工用米 面積		主食用水稲 作付面積 ⑥=③-④-⑤	⑥-② ⑦	作況指数 ⑧	都道府県名	生産数量 目標 ①	①を 面積換算 したもの ②	全水稲作付 面積 ③	加工用米 面積		主食用水稲 作付面積 ⑥=③-④-⑤	⑥-② ⑦	作況指数 ⑧
				④	新規需要 米等面積 ⑤								④	⑤			
全国	8,129,990	1,538,697	1,657,000	39,327	37,573	1,580,101	41,400	98									
北海道	604,510	112,990	115,100	2,028	676	112,396	▲ 594	98	滋賀	174,460	33,680	33,400	606	304	32,489	▲ 1,191	100
青森	267,300	46,090	50,400	2,227	1,101	47,072	982	100	京都	80,720	15,810	15,800	77	70	15,653	▲ 157	99
岩手	295,240	55,390	57,600	1,595	1,195	54,810	▲ 580	104	大阪	28,000	5,680	5,820	0	5	5,815	135	98
宮城	382,210	72,121	76,100	1,352	2,928	71,820	▲ 301	103	兵庫	193,010	38,327	39,000	522	357	38,121	▲ 206	96
秋田	461,870	80,703	92,800	8,179	2,342	82,279	1,576	93	奈良	43,630	8,519	9,400	2	72	9,326	806	98
山形	381,170	64,170	69,700	2,748	1,673	65,279	1,109	100	和歌山	37,130	7,536	7,620	-	3	7,617	82	99
福島	365,020	68,025	81,900	1,125	1,412	79,362	11,338	103	鳥取	72,360	14,096	14,600	86	408	14,107	11	99
茨城	355,390	68,340	78,300	1,794	1,096	75,410	7,070	100	島根	98,000	19,250	19,900	180	557	19,163	▲ 87	95
栃木	321,790	59,700	65,800	1,586	2,301	61,913	2,213	99	岡山	167,230	31,790	34,300	226	633	33,441	1,651	97
群馬	83,250	16,850	18,500	676	555	17,269	419	82	広島	138,090	26,400	26,500	217	237	26,046	▲ 354	98
埼玉	161,280	32,857	36,100	99	592	35,408	2,551	86	山口	121,630	24,130	24,000	0	130	23,870	▲ 260	97
千葉	262,150	49,180	62,200	601	798	60,801	11,621	102	徳島	60,880	12,860	13,700	-	247	13,453	593	99
東京	930	230	179	-	0	179	▲ 51	97	香川	76,490	15,331	15,300	-	50	15,250	▲ 81	101
神奈川	14,940	3,060	3,220	-	5	3,215	155	98	愛媛	79,680	16,000	15,900	-	78	15,822	▲ 178	99
新潟	560,485	104,243	119,600	7,453	3,501	108,647	4,403	97	高知	52,070	11,383	13,500	2	423	13,075	1,693	98
富山	206,730	38,640	39,900	1,414	356	38,129	▲ 511	101	福岡	197,350	39,550	40,400	428	992	38,980	▲ 570	97
石川	132,430	25,551	26,600	987	146	25,467	▲ 84	101	佐賀	149,565	28,379	28,100	107	285	27,708	▲ 671	94
福井	136,060	26,320	27,000	745	196	26,060	▲ 260	100	長崎	67,120	14,160	14,200	20	238	13,942	▲ 218	94
山梨	28,750	5,260	5,300	18	18	5,264	4	97	熊本	207,080	40,210	43,500	306	4,110	39,084	▲ 1,126	99
長野	205,900	33,088	34,800	512	281	34,007	918	98	大分	126,910	25,230	25,700	37	1,356	24,308	▲ 922	98
岐阜	122,755	25,158	25,500	161	631	24,709	▲ 450	97	宮崎	102,940	20,880	23,200	62	3,167	19,971	▲ 909	100
静岡	87,390	16,797	17,900	92	477	17,332	535	98	鹿児島	120,360	25,130	25,600	338	853	24,409	▲ 721	100
愛知	144,265	28,453	31,200	308	318	30,573	2,120	98	沖縄	3,210	1,040	959	-	50	909	▲ 131	95
三重	150,260	30,110	31,300	411	350	30,539	429	100									

注1: ①は県間調整後の数値。
 注2: ③は統計部公表「平成22年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」の作付面積(青刈り面積含む)。
 注3: 新規需要米等面積は、新規需要米認定面積のほか、新規需要米扱いとなっていない青刈り分を含む。
 注4: ラウンドの関係で内訳と合計が一致しない場合がある。

24 販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数(平成17~22年)

上段(農家数) : 千戸

下段(割合) : %

	北海道					都府県					
	計	3ha未満	3ha~5ha	5ha~10ha	10ha以上	計	1ha未満	1ha~2ha	2ha~3ha	3~5ha	5ha以上
平成17年	20	6	4	7	3	1,383	1,022	244	64	35	18
	(100.0)	(30.0)	(20.0)	(35.0)	(15.0)	(100.0)	(73.9)	(17.6)	(4.6)	(2.5)	(1.3)
平成18年	18	4	4	6	3	1,370	989	251	61	38	31
	(100.0)	(22.2)	(22.2)	(33.3)	(16.7)	(100.0)	(72.2)	(18.3)	(4.5)	(2.8)	(2.3)
平成19年	18	4	4	6	4	1,308	943	246	60	37	22
	(100.0)	(22.2)	(22.2)	(33.3)	(22.2)	(100.0)	(72.1)	(18.8)	(4.6)	(2.8)	(1.7)
平成20年	17	4	4	5	4	1,259	904	231	63	37	24
	(100.0)	(23.5)	(23.5)	(29.4)	(23.5)	(100.0)	(71.8)	(18.3)	(5.0)	(2.9)	(1.9)
平成21年	17	3	4	5	4	1,225	880	226	59	35	24
	(100.0)	(17.6)	(23.5)	(29.4)	(23.5)	(100.0)	(71.8)	(18.4)	(4.8)	(2.9)	(2.0)
平成22年	16	4	3	5	4	1,144	843	190	54	35	22
	(100.0)	(25.0)	(18.8)	(31.3)	(25.0)	(100.0)	(73.7)	(16.6)	(4.7)	(3.1)	(1.9)

(注) 平成17年及び22年は、「農林業センサス」、その他の年は、「農業構造動態調査」の調査結果に基づくもの。
 (農林業センサスは全数調査であるが、農業構造動態調査は標本調査である。)
 ラウンドの関係で計と内訳の合計が一致しない場合がある。